

## さわちゃん劇場

(澤口浩 作画) 117

### 超寒かった今年の冬の巻



(実話)



木村 かえでちゃん

(3歳7カ月・五日市)  
麻史さん・優美子さん長女

みかんやバナナなど果物が好きなかえでちゃん。大きな病気もせず、お兄ちゃんと元気いっぱいパワフルに走り回っています。おばあちゃんがこたつで横になっていると、そつと毛布をかけてあげたりとってもお世話好きなおとも。健康でやさしい子に育ってほしいです。優美子



近藤 はるき 晴希くん

(3歳9カ月・浦子内)  
武史さん・喜代子さん長男

メロンとめん類が大好きなはるき。お姉ちゃんとミニカー遊びやおままごとなど、すくどしていません。洗い物やお風呂そうじなども手伝ってくれます。おじいちゃん、おばあちゃんたちのおかげで方言もめきめき上達。うるさくても何でも、とにかく元気がいちばんです。喜代子

わが家の  
— 369 —  
アイドル

## ハイ、元気です

226



かどくち はつお 初男さん  
(80歳・下外川)

「今までもこれからも、ばあさまに生かしてもらっているって感じなんです」と奥さまに感謝する初男さん。奥さまと一緒に産直めぐりなど、ドライブによく出掛けているそうです。  
現在も、自宅周辺の山林の巡視員として、山火事の防止などに目を配りまします。若いころから尺八や三味線、横笛などの和楽器や写真、俳句、射撃など趣味が多彩。「楽器を習いたいという人がいて、暖かくなったら通って来てくれるのが楽しみ」と話す初男さんです。

## 第1回東北太鼓ジュニアコンクール

### 馬淵川源流太鼓の会ジュニアが出場



元気いっぱいの馬淵川源流太鼓の会ジュニアのメンバー

馬淵川源流太鼓の会ジュニアは、平成7年に結成。現在、小学2年生から高校3年生までの30人の会員がいます。その中から規定枠とされる15人が代表としてステージに登場し「源流まつり太鼓」を演奏しました。競技は、学年を問わず18歳以下で構成し競技時間4分の中で技術や腰を落とした基本姿勢、礼節やチームワーク、表情に至るまで審査されます。張り詰めた緊張感の中、会場に響き渡るほど元気のいい掛け声と体いっぱいに表現した演奏には、たくさんのあたたかい拍手がおくられました。

このコンクールがジュニアとして最後の大会となったリーダーの冬澤佳奈恵さん(葛巻高3年)は「他の団体のレベルの高さに驚きました。今回、これまでとは違う視点から見ることができたので、新たな課題や目標を掲げてこれからも頑張りたいです。会の大人のメンバーの方々や家族のみんな、ジュニアの仲間たちのおかげで、東北大会出場という貴重な経験をさせていただきました。本当に感謝でいっぱいです」と笑顔で話しました。

今回は、岩手県代表として参加を辞退した団体があつたための繰り上げ出場。参加が決まってすぐの年明けから大会前日、当日の空き時間に至るまで時間の許す限り練習を続け、息を合わせた表現力に磨きをかけてきました。結果は、惜しくも入賞することはできませんでしたが、宮城県で開催される第2回大会への連続出場へ向けて、さらなる飛躍が期待されます。



冬澤佳奈恵さん

第1回東北太鼓ジュニアコンクール(主催:東北太鼓連合)が2月11日、福島県文化センターで開催され、馬淵川源流太鼓の会ジュニアが岩手県代表5団体のうちの1団体として出場しました。

コンクールには東北6県から予選を勝ち抜いた22団体が出場し、特別演奏として地元・福島県から3団体が参加。子どもたちの躍動感あふれる勇姿を肌で感じようと約1,000人の観客が会場に詰めかけました。

ヤング  
371

## 山仕事に関われてうれしい

地元葛巻高校を卒業後、東京の専門学校へ進み、その後コンビニなどでアルバイトを経験し、22年11月から町の森林組合に勤務しています。山林の災害保険の手続きや、労務班の雇用関係を担当。「ミスを少なくすることはもちろんですが、年配の作業員の方々が多いのでホッとするような声かけができればいいなと思っています」と話します。

高校時代は、郷土芸能部に所属し太鼓を担当。動物が大好きで、現在犬2匹と猫3匹を飼っています。仕事以外はお姉さんといつも一緒に、ライブやカラオケに出掛けたりするのが楽しみ。

理想の男性像は、「自分をしっかりもっていて、流されない人」。

「山の仕事は本当に奥が深く、作業の方法など知らなかったことがいっぱい。自然環境を守る貴重な仕事に関わることができてうれしいです」と笑顔を見せてくれました。

## 今日のショット



2月24日  
茶屋場えんぶり



2月8日  
ワインパーティ